

# 2025年度決算の概要 (2025年4月1日～2026年3月31日)

2026年6月2日

黒崎播磨株式会社

## 1. 2025年度決算（連結）の概要

---

## 2. トピックス

---

## 【参考】 当社の概要

---

【本資料中の数値表示について】

特段の注記がない場合、金額表示は表示未満単位を切り捨て、百分率は小数点第2位を四捨五入し小数点第1位までを表示しております。

# 1. 2025年度決算(連結)の概要

# 2025年度決算の概要(連結)

## 経営成績の概況

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てが過去最高。

- ・ 第135期における世界経済は、米国の関税政策や中国内需の停滞に加え、中東・ウクライナ情勢をはじめとする地政学リスクの高まり、急激な為替変動などにより、極めて不確実性の高い状況が継続しました。
- ・ 主要顧客である鉄鋼業界においても、国内外の鋼材需要の低迷や中国の過剰生産による市況悪化の常態化を背景に、一部地域を除き粗鋼生産量の減少が継続するなど、厳しい事業環境にありました。
- ・ このような環境下、当社は欧州における需要減退やインドルピー安に伴う海外事業利益の目減りといった影響を受けたものの、自助努力によるコストダウンの推進、前期におけるコスト上昇分の販売価格への転嫁進展、ファーンレス事業における高収益案件受注に加え、インドをはじめとする旺盛な海外需要を着実に取り込んだことにより、前年度比で増収増益を達成し、売上高 1,783.1億円、営業利益 154.2億円、経常利益 166.4億円、親会社株主に帰属する当期純利益 163.5億円といずれも過去最高を更新しました。

# 2025年度決算の概要（連結）

単位：億円

	FY2024	FY2025	前年度比	
売上高	1,779.2	1,783.1	+3.9	0.2%
営業利益	140.8	154.2	+13.4	9.5%
経常利益	153.1	166.4	+13.3	8.7%
純利益 <sup>(*1)</sup>	125.3	163.5	+38.1	30.5%
ROS <sup>(*2)</sup>	8.6%	9.3%	0.7pt	

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てが過去最高。

## 事業環境

- ・国内粗鋼生産量（FY2025\_4月～3月） 8,033万トン（前年度比▲3.2%）
- ・世界粗鋼生産量（CY2025\_1月～12月） 18億4,940万トン（前年同期比▲2.0%）
- ・インド粗鋼生産量（CY2025\_1月～12月） 1億6,490万トン（前年同期比+10.4%）

(\*1)：親会社株主に帰属する純利益

(\*2)：売上高経常利益率

# セグメント別業績(連結)

単位：億円

		FY2024	FY2025	前年度比	
耐火物	売上高	1,485.3	1,522.0	+ 36.6	+ 2.5%
	セグメント利益	114.3	127.4	+ 13.0	+ 11.4%
ファーンレス	売上高	197.2	175.9	▲ 21.3	▲ 10.8%
	セグメント利益	15.1	20.8	+ 5.7	+ 37.6%
セラミックス	売上高	78.0	83.1	+ 5.0	+ 6.5%
	セグメント利益	4.8	4.6	▲ 0.2	▲ 4.3%
不動産他(*)	売上高	18.4	2.0	▲ 16.4	▲ 89.1%
	セグメント利益	6.4	1.3	▲ 5.1	▲ 79.7%
合計	売上高	1,779.2	1,783.1	+ 3.9	+ 0.2%
	セグメント利益	140.8	154.2	+ 13.4	+ 9.5%

各セグメントの売上高は外部顧客への売上高であり、セグメント間の内部売上高又は振替高は含まれていません。

また、セグメント利益は営業利益ベースです。

(\*) 2025年7月1日に保有していた賃貸不動産を売却しています。これにより、賃料収入が減少しています。

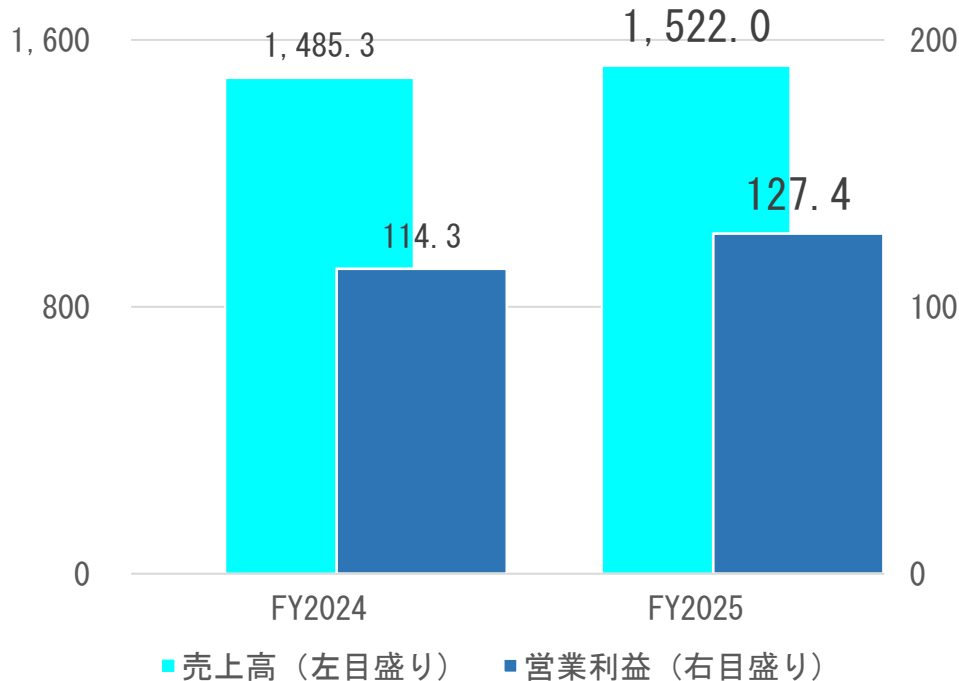
また、2024年度末をもって石灰事業から撤退いたしました。

# 耐火物セグメント

## 業績推移

単位：億円

	FY2024	FY2025	前年度比	
売上高	1,485.3	1,522.0	+36.6	+2.5%
営業利益	114.3	127.4	+13.0	+11.4%



## 業績レビュー

- ・国内外の粗鋼生産量減少に対し、生産性向上・歩留まり改善等の自助努力によるコストダウン施策を進めたことに加え、前年度コスト変動に対する販売価格転嫁の進捗・インドでの拡販により増収増益。

## 今後の取り組み

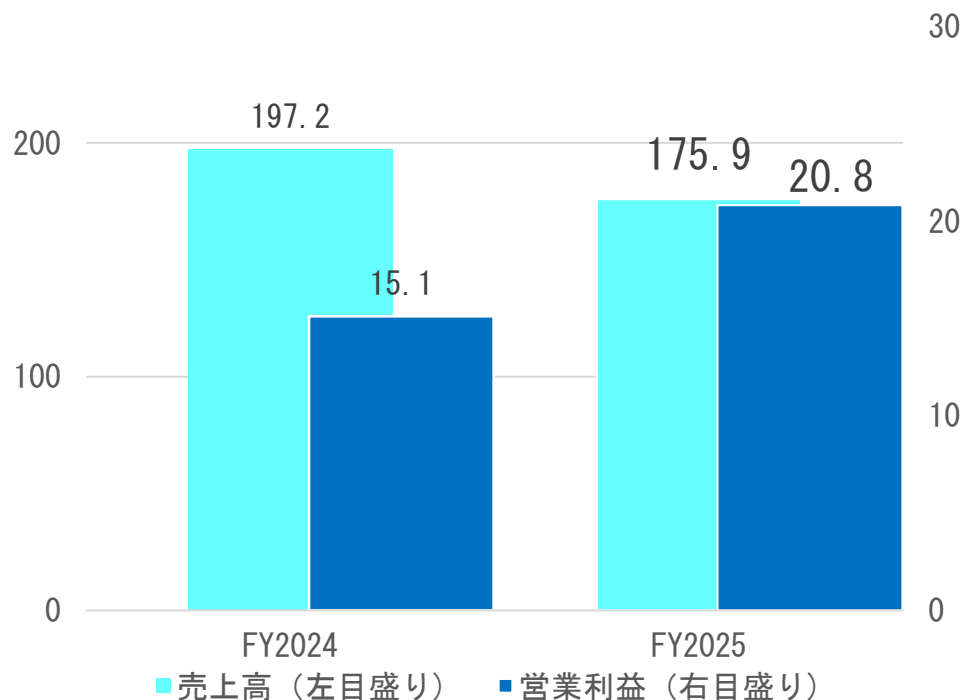
- ・国内は自動化・省力化やDX推進、技術力を活かした新商品の市場投入により競争力を更に高め、収益基盤をより強化する。
- ・インドでは拡大する需要を確実に捕捉すべく生産能力増強を進める。
- ・欧州・米州ではアライアンスパートナー企業と当社製造・販売拠点との連携深化により、一層の事業収益拡大を目指す。

# ファースセグメント

## 業績推移

単位：億円

	FY2024	FY2025	前年度比	
売上高	197.2	175.9	▲21.3	▲10.8%
営業利益	15.1	20.8	+5.7	+37.6%



## 業績レビュー

- ・売上高は、資材等コスト上昇分の着実な価格転嫁を進めたものの、大型工事案件の受注が谷間となったことにより減収。一方、利益は、受注案件の構成差及び要員効率化等により増益。

## 今後の取り組み

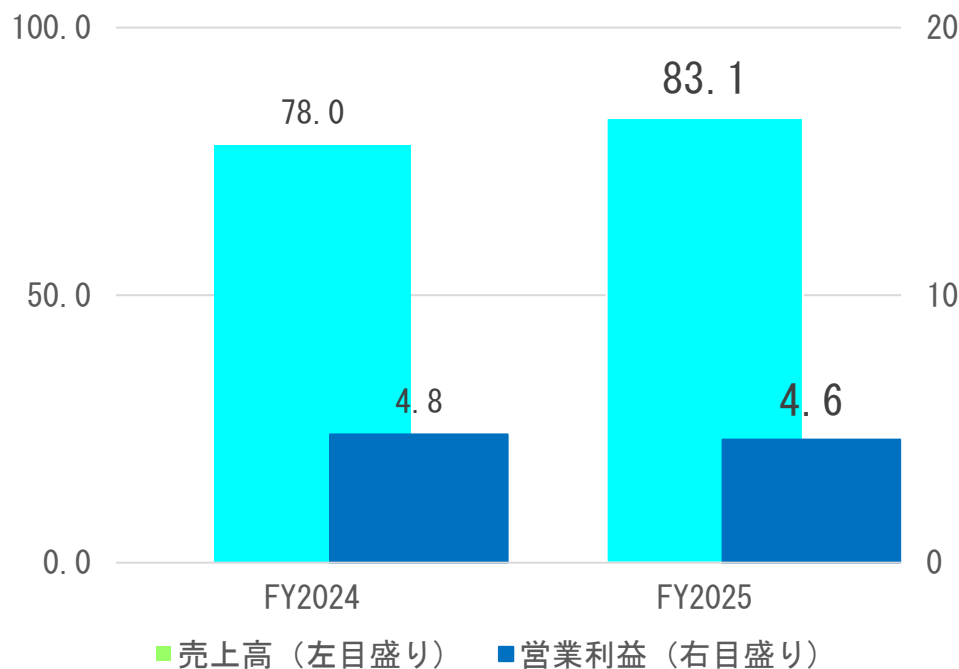
- ・工事案件の確実な捕捉、製鉄設備整備作業の継続受注及び要員効率化等のコストダウンにより、収益力向上を推進する。
- ・省エネ工業炉の設計・施工に加え、バイオマスを含む発電用ボイラ及び焼却炉等、非鉄ユーザー向けのメンテナンス・新規案件の受注により、収益を拡大する。

# セラミックスセグメント

## 業績推移

単位：億円

	FY2024	FY2025	前年度比	
売上高	78.0	83.1	+5.0	+6.5%
営業利益	4.8	4.6	▲0.2	▲4.3%



## 業績レビュー

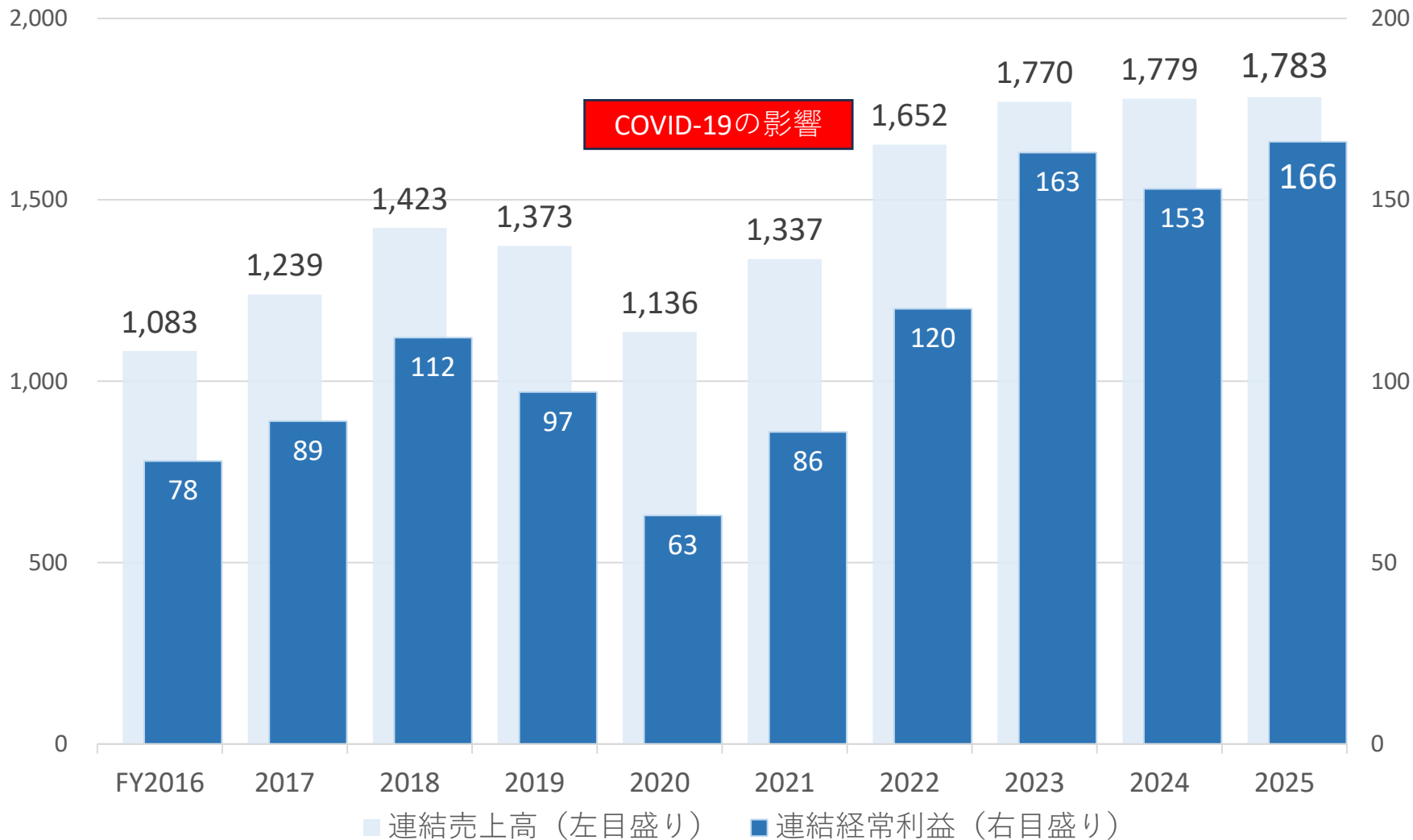
- 売上高は、家庭用燃料電池向け等断熱材の回復により増収となるも、利益は、半導体露光装置向け需要の回復遅れにより減益。

## 今後の取り組み

- 半導体露光装置向けを中心に、今後回復が見込まれる半導体分野で拡大する需要を、確実に捕捉する。
- 環境分野向け断熱材、電子部品向けセラミックス材、宇宙・医療はじめ新規分野向け製品等、各分野での拡販により収益を更に拡大する。

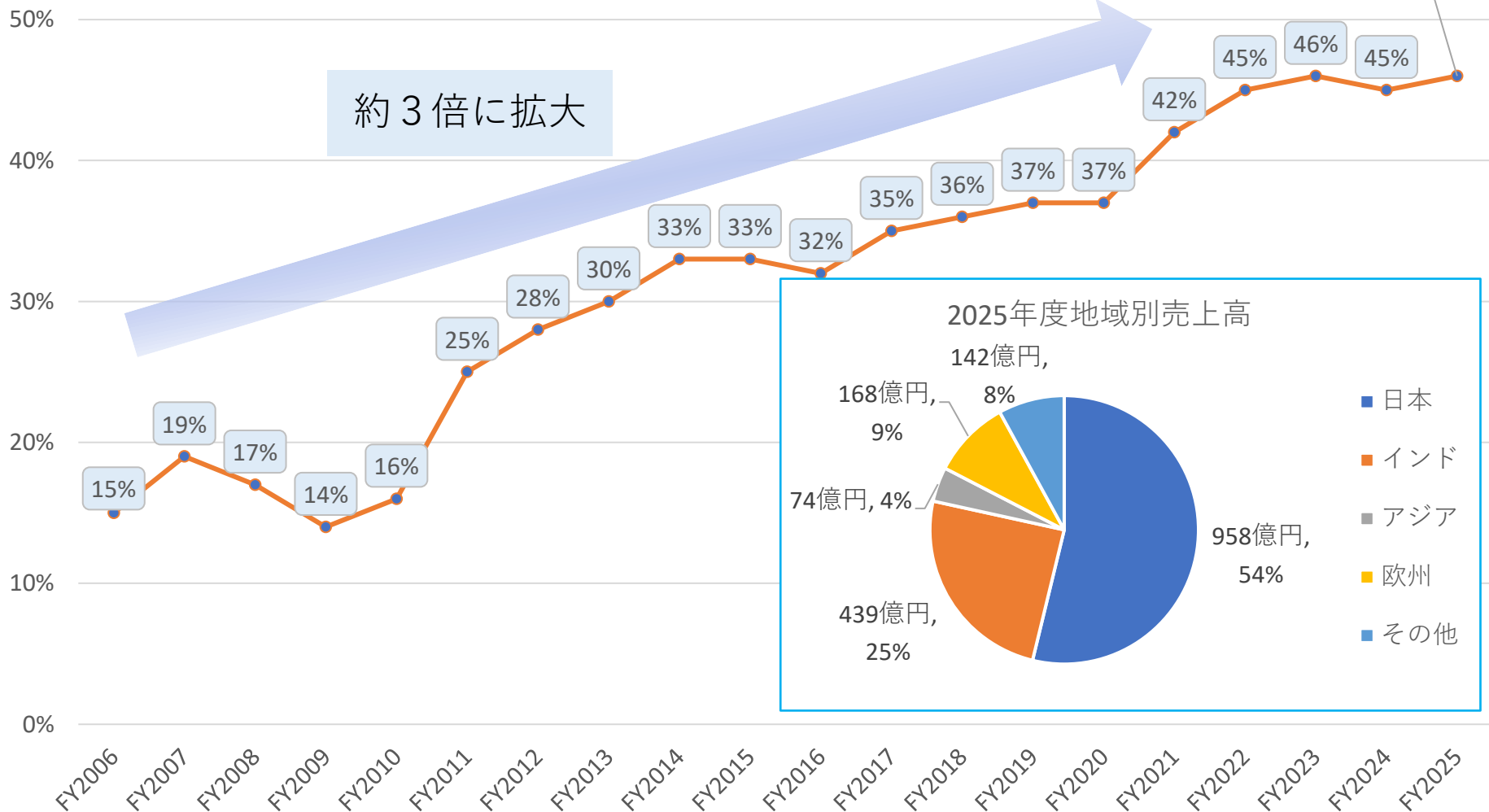
# 連結売上高・連結経常利益の推移（10年間）

単位：億円



# 海外売上高比率の推移

インド事業をはじめとする海外事業の拡大により、海外売上高比率は、20年前と比べ**約3倍まで拡大**。連結売上高の約半分（46%）が海外事業での売上。



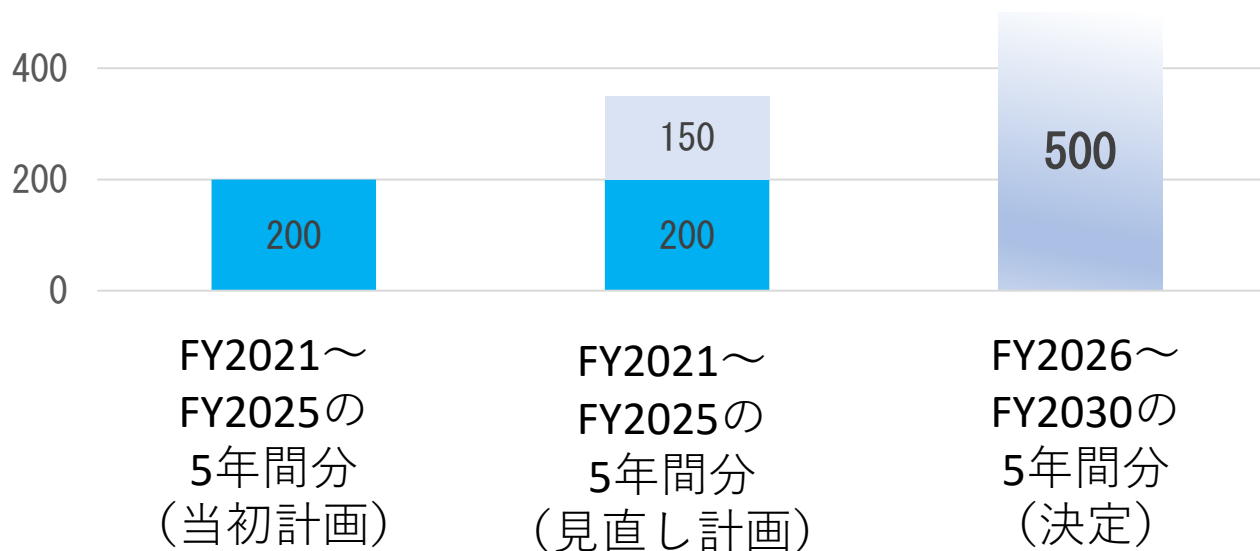
## 2. トピックス

# 2030年度までに500億円の設備投資

国内需要の減少を踏まえ、国内工場の生産性向上や、電炉大型化・成長分野対応を目的とした自動化を含む設備投資を機動的に実行し、コスト及び品質面での競争力強化を図る。併せて、インドをはじめとする成長市場での需要捕捉を目的に、海外製造拠点の確保を進める。さらに、半導体製造装置・電子部品製造向けの設備増強、DXの推進・脱炭素化・調達が多様化を通じて、収益性の確保と持続的な成長を実現する。

単位：億円

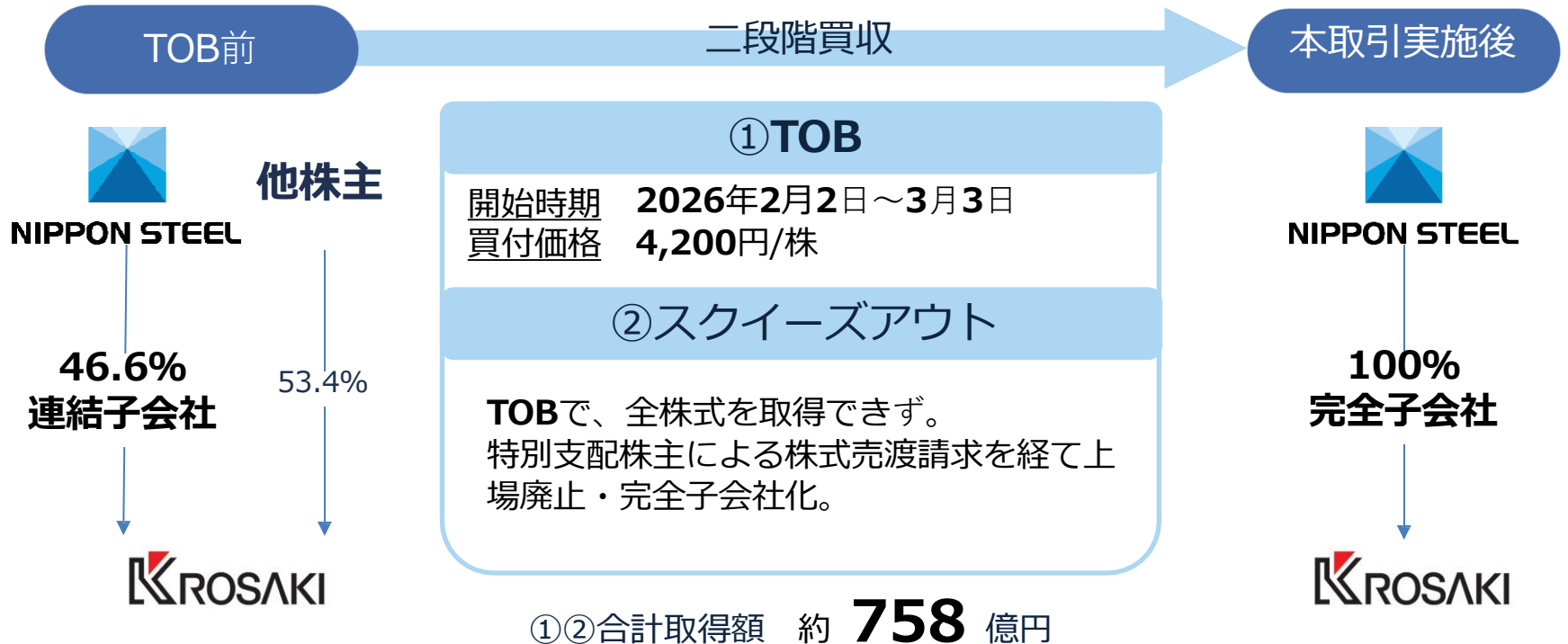
設備投資額（意思決定ベース）



# 2026年4月1日\_日本製鉄(株)による当社完全子会社化

親会社である日本製鉄株式会社が、連結子会社である当社を二段階買収(TOBおよびスクイーズアウト手続き)により完全子会社化

日本製鉄と当社の経営リソースを持ち寄り、更なる一体化・最適化を推進していくことにより競争力の一層の強化を図る → 具体的シナジーは次項に掲載。



※上記比率は黒崎播磨が所有する自己株式を除いた株式数に対する割合(議決権比率)

# 完全子会社化によるシナジー

## ➤ 海外事業収益の最大化

- ・国内耐火物需要の縮小が見込まれる環境下において、今後更なる海外事業展開に注力していく中で、日本製鉄との連携を一層強化しそのリソース活用を拡大できることは、競合他社にない強みとなる。
- ・特に北米での積極的な事業拡大を図る日本製鉄と連携することで、高機能耐火物需要や日本製鉄グループの大規模な設備投資に伴う需要を的確に捕捉することが可能。
- ・また、大規模なM&A等、日本製鉄の資金調達力等を機動的に活用することによって、更なるグローバル収益の拡大が可能になる。

## ➤ 耐火物に関するソリューション提案力の強化

- ・完全子会社となり更に踏み込んだ操業情報の開示を受けられるようになることで、日本製鉄の鉄源競争力強化に向け、耐火物の開発を含めたソリューション提案力を強化し、当社の収益拡大につなげることができる。

## ➤ 耐火物整備事業の安定化

- ・築炉工不足の顕在化、高炉休止・電炉移行の進展等の大きな経営環境の変化の下、中長期的な視点での構造的対策が必要。本取引を契機に、耐火物整備事業の中核企業としての位置づけが明確になり、人材の確保を含め当社事業の安定に資する。

# K-GenesisXウェブサイトリリース

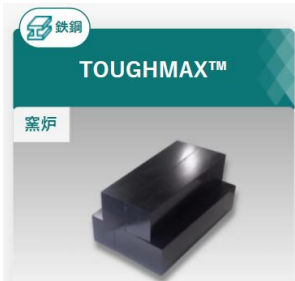
2025年4月に環境ブランド「**K-GenesisX™**（ケージェネシックス）」のウェブサイトリリース。[\(https://www.krosaki.co.jp/kgx/\)](https://www.krosaki.co.jp/kgx/)

本サイトでは、K-GenesisXが提供する価値や戦略商品をはじめ、チームメンバーへのインタビュー、活動ニュース、戦略商品カタログのダウンロード等、さまざまなコンテンツを提供。

<トップページ>



## <戦略商品群>



# 更なるグローバル展開に向けた基盤強化

## (1) ベトナム現地法人 KROSAKI VIETNAM COMPANY LIMITEDの設立

東南アジアの粗鋼生産量は、域内鋼材需要の増加を受け着実に拡大を続けるとともに、域内で生産される鋼材の品質高度化に伴い、当社が得意とする高機能耐火物の需要拡大が期待されている。こうした状況のもと、拡大する需要を確実に捕捉すべく、東南アジア最大の鉄鋼生産国であるベトナムに現地法人を設立し、ベトナムをはじめとする東南アジア地域での事業基盤強化を図る。2025年2月事業開始。



ベトナム・ホーチミン

## (2) 中東・アフリカ向け営業拠点強化を目的としたキプロス拠点会社の株式取得

今後発展が見込まれる中東、アフリカでの拡販を目的に、スペインKAMR社を通じてキプロス耐火物販売会社を買収。2025年6月に株式取得、取得割合70.02%。買収後、社名をKrosaki Middle East and Africa Ltd.に変更。キプロスは、地理的・商業的に中東・アフリカへのアクセス拠点として利便性が高く効率的な営業展開が可能。スペインKAMR・REFの両社のみならず、当社を含めたグループ全体で同地域での拡販を図る。



キプロス共和国

# 更なるグローバル展開に向けた基盤強化

## インドTRLK 近年の設備投資



インドでの積極的な成長投資により売上・利益ともに継続的に増加。インド東部で拡大する需要を捕捉すべく設備能力を拡大中。

インド国内6拠点による鉄鋼用耐火物のフルメニュー生産・販売体制を確立し、収益・競争力強化を推進。

また、**2026年8月にはインド西部グジャラート州に7番目の生産拠点を稼働予定。**

2024年 8月 マッド材工場第4ライン増設  
(ベルパハール)

2025年 3月 RH浸漬管工場新設  
(ベルパハール)

2025年 9月 転炉用MgO-Cれんが工場新設  
(インド国内初、ベルパハール)

2026年 8月 ハイアルミナれんが・不定形耐火物工場稼働予定(グジャラート)

# 更なるグローバル展開に向けた基盤強化

## インド西部（グジャラート州）に新たに第7番目の工場を建設 《稼働予定：2026年8月》

インドの粗鋼生産量は日本の約2倍まで増加。  
拡大する需要を捕捉すべく、2024年10月に24億円の大型投資を決定。

### 【設備投資の内容】

- 敷地面積：230,000㎡
- 投資金額：約24億円
- 製品品目：ハイアルミナ煉瓦、不定形耐火物
- 稼働予定：2026年8月

### 【グジャラート州】

- 人口：6,000万人以上
- 特徴
  - インド最大の工業生産額
  - セメント会社や鉄鋼会社が集積
  - 耐火物の一大需要地域



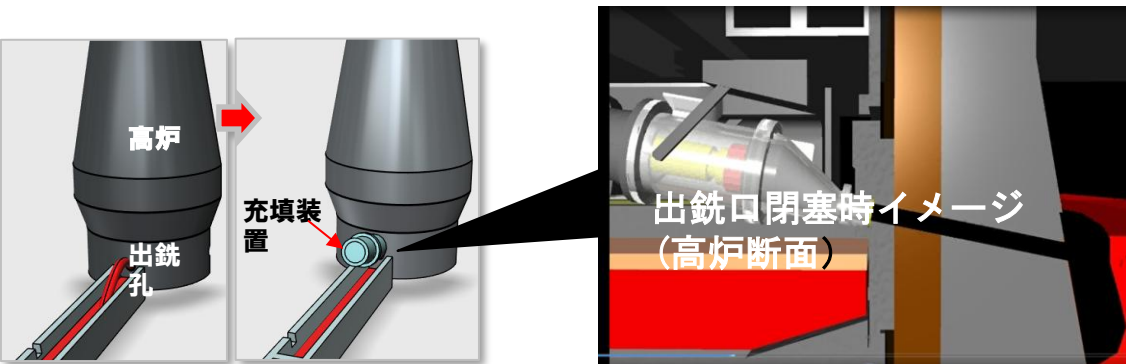
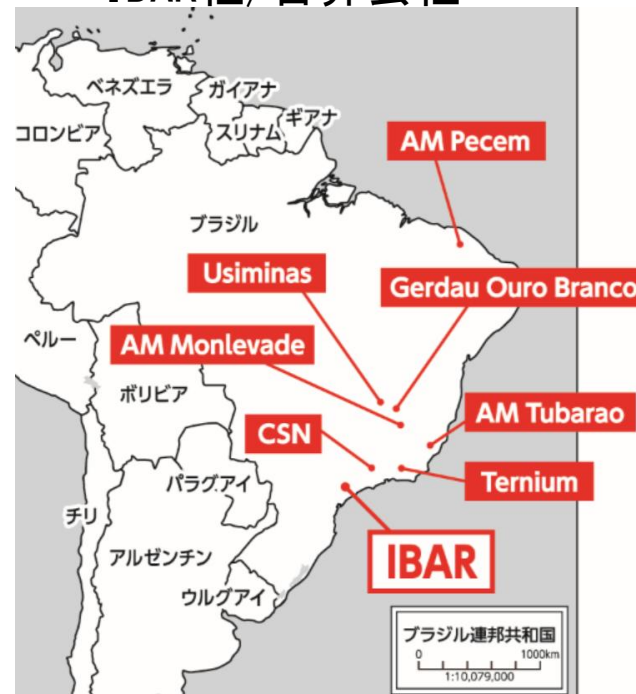
# 更なるグローバル展開に向けた基盤強化

ブラジル第2位の耐火物製造・販売会社IBAR社と折半出資により、当社が得意とする高品質な高炉出鉄口充填材（通称マッド材）を現地で製造・販売する合弁会社をIBAR社本社所在地（ブラジル・サンパウロ州ポア）に設立。

**2026年11月より稼働開始予定。**

当社技術を活用する製造拠点を南米に確保することにより、既の実施している販売・技術提携と併せて、現地需要を確実に捕捉できる体制を構築し、南米鉄鋼メーカーへの顧客対応を充実させる。

ブラジル大手鉄鋼メーカーと  
IBAR社/合弁会社



# 陸上競技部の活躍

## <昨年からの主な活躍>

2025年1月 ニューイヤー駅伝(全日本実業団対抗駅伝)、総合14位。

2025年2月 大阪マラソン2025に細谷恭平選手が出場。

全体4位、日本歴代7位・大会新となる2時間5分58秒の好記録。

2025年11月 第62回九州実業団毎日駅伝、総合3位。

15年連続38回目のニューイヤー駅伝出場決定。

2026年1月 ニューイヤー駅伝(全日本実業団対抗駅伝)、総合7位入賞。



大阪マラソン2025  
細谷恭平選手



第62回九州実業団  
毎日駅伝(2025年)  
田村友佑選手



2026ニューイヤー駅伝  
井手翔琉選手

MGC出場権獲得者  
(ファイナリスト)



細谷恭平選手



福谷颯太選手

# 【参考】当社の概要

# 会社概要(2026年3月末現在)

商号	黒崎播磨株式会社
資本金	5,537百万円
設立	1918年10月14日
創業	1919年 6月 1日
主要事業	耐火物事業、ファーンレス事業、セラミックス事業
従業員	連結5,061名
連結子会社及び持分法適用会社	15社（国内3社、海外12社）

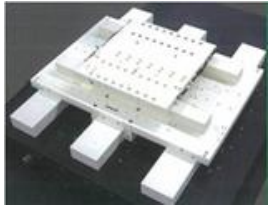
# 当社の概要

## 当社の歴史

1919年	黒崎窯業 創業（現・福岡県北九州市八幡西区）
1949年	東京証券取引所に株式を上場
1956年	八幡製鉄（現・日本製鉄）による資本参加
1989年	スペイン・ARISTEGUI MATERIAL REFRACTARIO, S. A （現、KROSAKI AMR REFRACTARIOS, S. A. U.）を子会社化
2000年	ハリマセラミックと合併、黒崎播磨に商号変更
2002年	九州耐火煉瓦を子会社化（2012年に合併）
2011年	インド・TATA REFRACTORIES LIMITED （現、TRL KROSAKI REFRACTORIES LIMITED）を子会社化
2019年	日本製鉄の連結子会社となる（3月） 創業100周年（6月1日）
2026年	日本製鉄による当社株式へのTOBとその後の手続きにより、非上場企業 となる（3月30日） 日本製鉄の完全子会社となる（4月1日）

# 黒崎播磨の事業セグメント

95%以上を耐火物関連事業(耐火物+ファーネス)が占める



半導体製造装置用部材



高性能断熱材



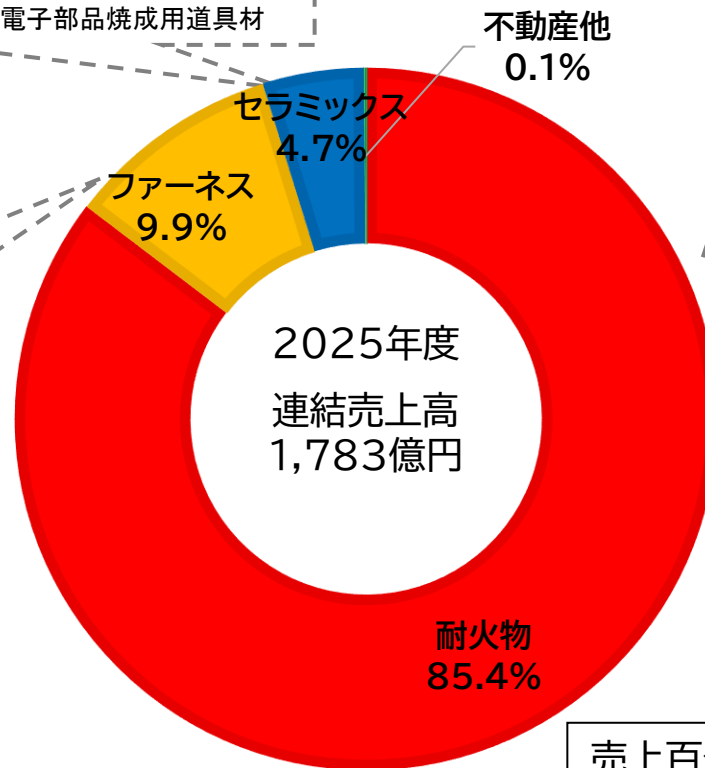
電子部品焼成用道具材



施工例)プッシャー式ビレット連続式圧延加熱炉



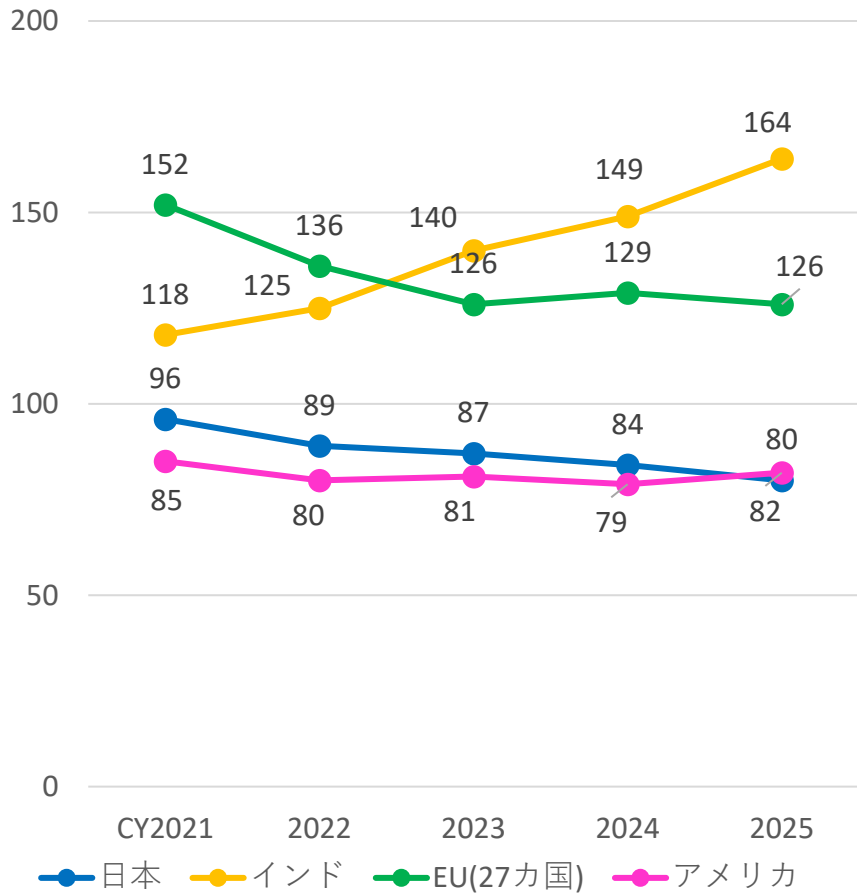
各種耐火物



# 鉄鋼業界の粗鋼生産量の推移

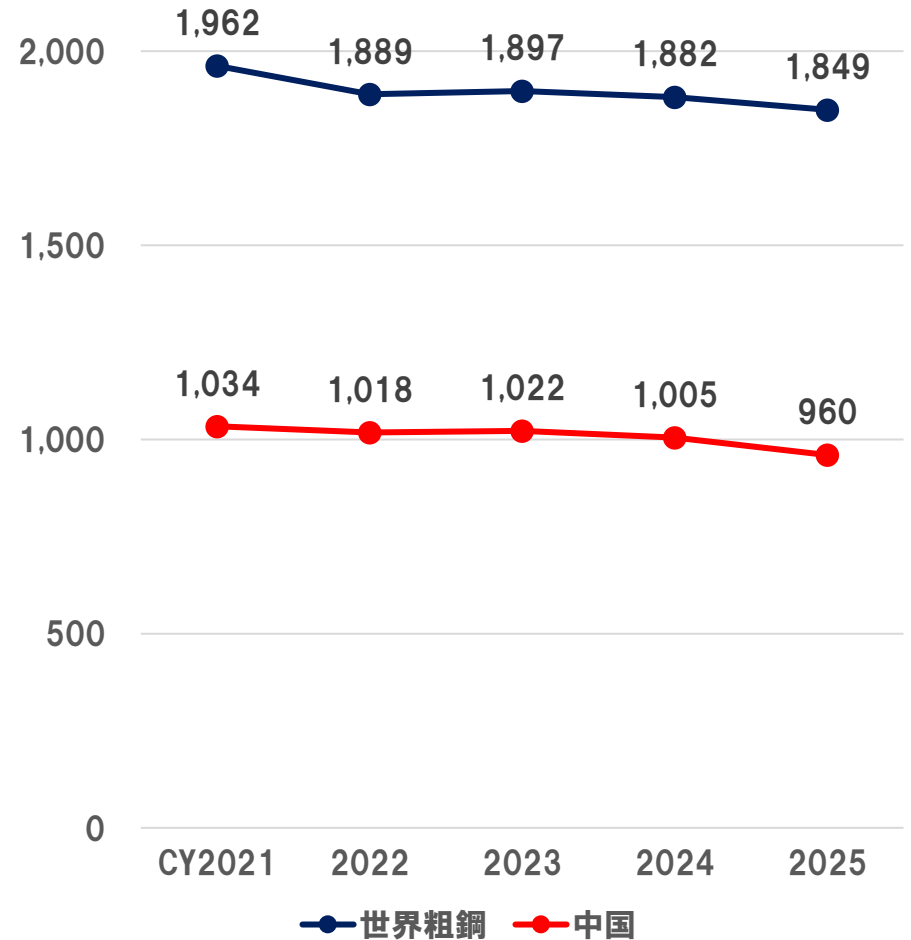
## 日本・インド・EU・アメリカの粗鋼生産

単位:百万トン



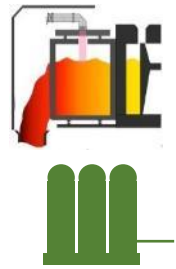
## 世界全体および中国の粗鋼生産

単位:百万トン



# 当社の事業領域(耐火物事業)

## <製鉄プロセス>



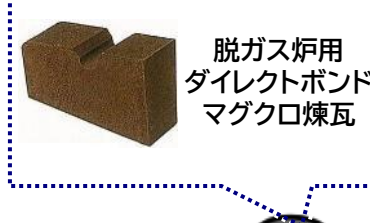
高炉



混鉄車



転炉



二次精錬炉



溶鋼鍋/連続铸造設備

設備投資連動  
の需要

消耗材

耐火物の寿命  
約40~50年



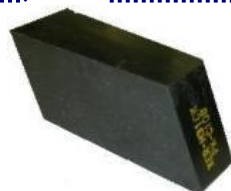
コークス炉用煉瓦

耐火物の寿命  
約20年



高炉用  
マッド材

耐火物の寿命  
約3~4ヶ月



混鉄車用  
アルミナ炭珪カーボン煉  
瓦

耐火物の寿命  
約3~4ヶ月



転炉吹付用不定形耐火物  
※写真は吹付けの様子

耐火物の寿命  
《上部》約1年  
《下部》約1ヶ月



SNプレート駆動装置

耐火物の寿命  
日々または数時間単位  
で交換



連続設備用  
SNプレート

# 主な耐火物製品の販売市場／生産拠点

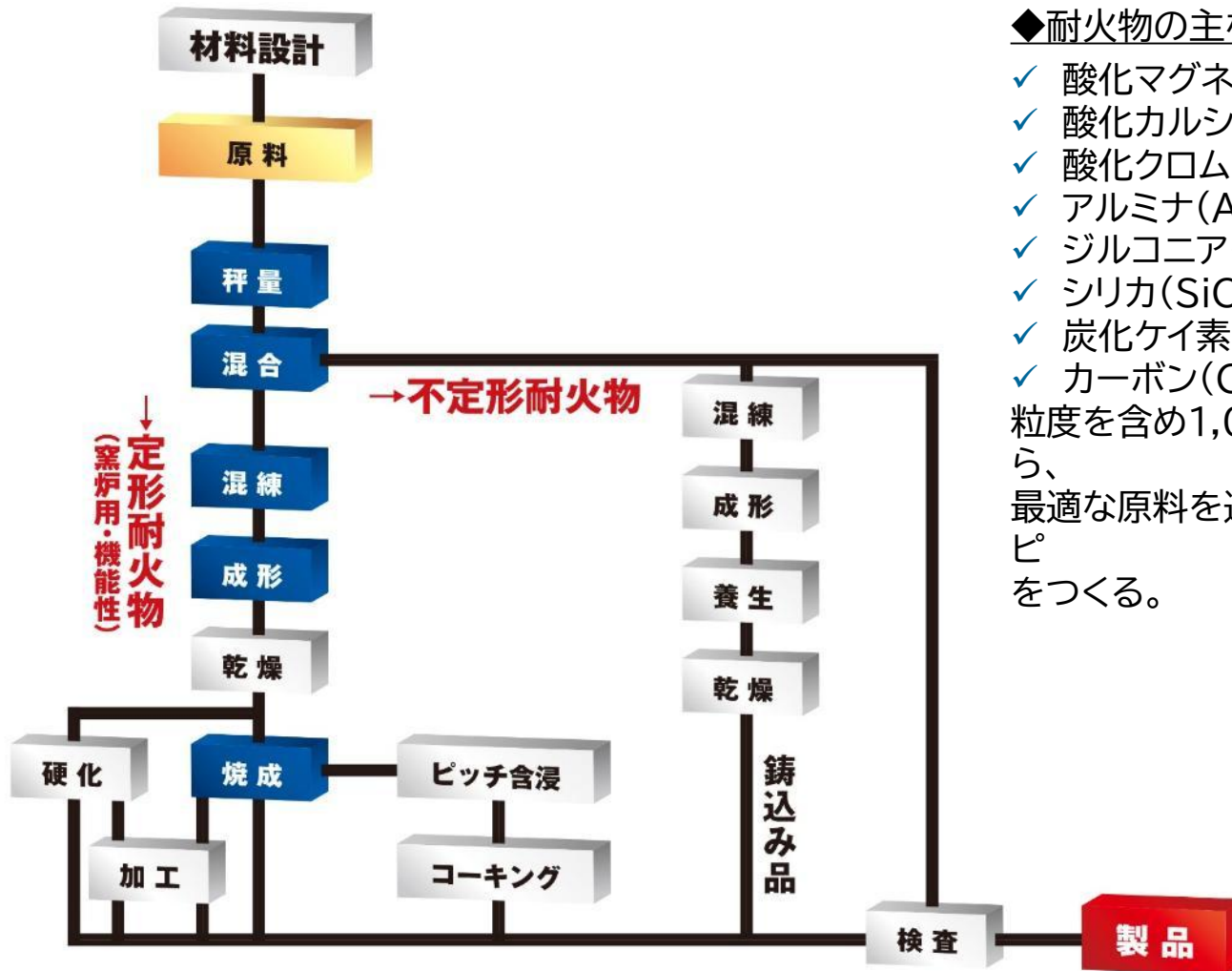
耐火物の分類	窯炉用耐火物	機能性耐火物			不定形耐火物	
		AGノズル	連続 casting 用 SNノズル・プレート	攪拌プラグ	補修材／ 流し込み材	マッド材
適用される 主な製鉄設備	高炉、熱風炉、 コークス炉、 混銑車、転炉、 二次精錬炉	連続 casting 設備	連続 casting 設備	溶鋼鍋	高炉、転炉、 溶鋼鍋	高炉
用途(機能)	設備の内張	溶鋼の整流	溶鋼の流量制 御	溶鋼の攪拌	補修、 設備の内張	高炉出銑口の 閉塞
黒崎播磨グループの 主な生産拠点	・日本 ・中国 ・スペイン ・インド	・日本 ・中国 ・インド	・日本 ・スペイン ・インド ・中国	・日本 ・インド ・中国	・日本 ・中国 ・インド ・スペイン	・日本 ・インド
黒崎播磨グループの 主な市場	・日本 ・アジア ・欧州 ・北米 ・インド ・南米 ・中国	・日本 ・アジア ・欧州 ・北米 ・豪州 ・中国 ・インド	・日本 ・アジア ・欧州 ・北米 ・豪州 ・中国 ・インド	・日本 ・欧州 ・北米 ・アジア	・日本 ・インド ・アジア ・豪州 ・北米 ・欧州	・日本 ・アジア ・北米 ・豪州 ・インド

# 耐火物の製造工程

## ◆耐火物の主な原料◆

- ✓ 酸化マグネシウム(MgO)
- ✓ 酸化カルシウム(CaO)
- ✓ 酸化クロム(Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)
- ✓ アルミナ(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)
- ✓ ジルコニア(ZrO<sub>2</sub>)
- ✓ シリカ(SiO<sub>2</sub>)
- ✓ 炭化ケイ素(SiC)
- ✓ カーボン(C) など

粒度を含め1,000種類以上の原料から、最適な原料を選択・組み合わせてレシピをつくる。



# 当社の事業領域(ファーンネス事業)

## 整備・メンテナンス

製鉄所やセメント工場等にて、設備の耐火物施工や補修、メンテナンスを行う。



コークス炉の耐火物施工



セメントロータリーキルン内での耐火物施工の様子

## 工業炉(加熱炉・環境工業炉等)の設計・施工

主に工業炉(加熱炉、焼却炉、発電ボイラ等)の設計や施工を行う。耐火物使用部分のみの設計・施工や、付帯機械設備のエンジニアリング等も行う。  
省エネルギー実現によるエネルギー・環境問題へも貢献。

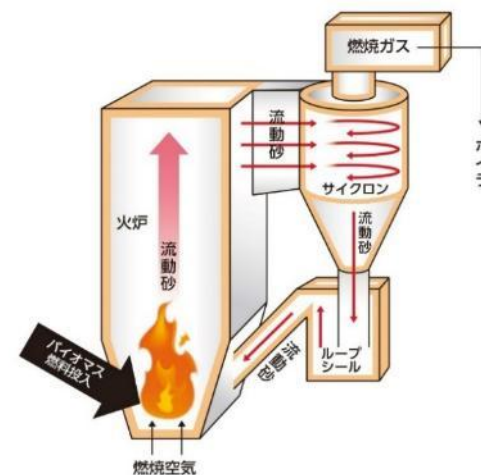


ウォーキングビーム炉(加熱炉)の外観



加熱炉内での耐火物施工

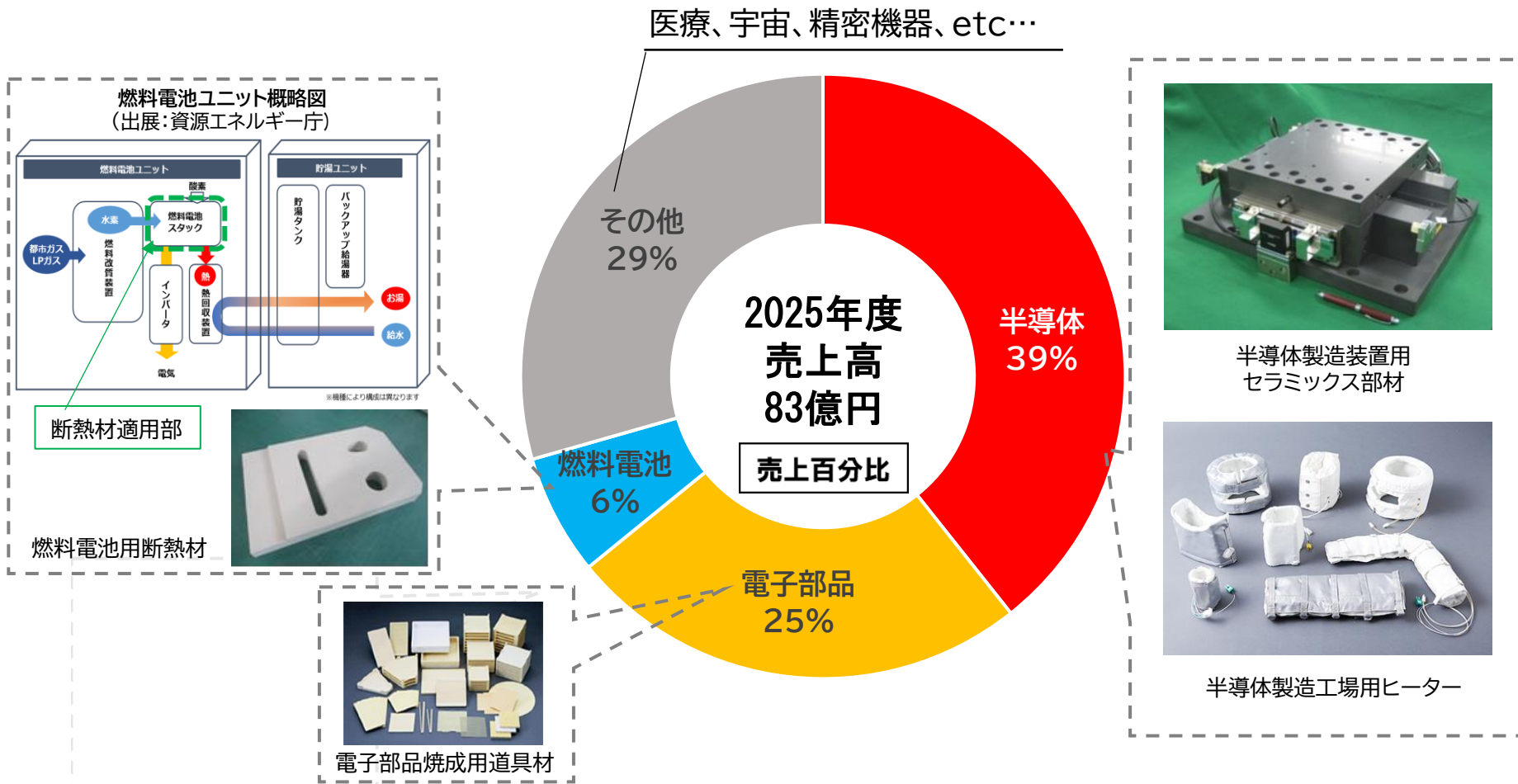
### ■ 耐火物施工部位



バイオマス発電用ボイライメージ図

# 当社の事業領域(セラミックス事業)

当社セラミックス事業の高い技術と知見を活かし、半導体・電子部品分野を中心とする様々な産業分野に幅広く貢献



# セラミックス事業の製品群①

## 高性能なファインセラミックスで産業の発展に貢献

製品分類	精密部品用セラミックス		マシナブルセラミックス	浮上搬送用セラミックスローラー
製品例				
主な用途	半導体製造装置		測定機器、光学機器分野	電子部品、産業機器 半導体製造分野
製品の 特長等	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型形状と精密加工やアセンブリ技術の強みを生かし、半導体製造装置や精密機械で適用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼロ膨張セラミックス「NEXCERA®」の優れた寸法安定性、環境ロバスト性を活かし、測定機用基準器や光学用ミラーとして適用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属加工と同様に切削加工が可能な易加工性セラミックス</li> <li>ミクロンオーダーの微細加工を実現</li> <li>写真は小径穴加工(直径60µm)したマセライトHSPのブローブカード(ウエハーに形成されたICチップの検査治具)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィルム等のウェブを多孔質セラミックスからの均一且つ安定した空気の供給により浮上・非接触化させ、しわの発生を抑制</li> <li>耐摩耗性および絶縁性に優れる</li> </ul>

# セラミックス事業の製品群②

## 熱を操る技術で半導体・電子部品・燃料電池分野等で貢献

製品分類	高機能断熱材	ヒーター	電子部品焼成用道具材
製品例			
主な用途	家庭用燃料電池、鉄鋼・非鉄工業炉、航空機、自動車分野	半導体関連装置	電子部品製造分野
製品の 特長等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静止空気より断熱性が優れ、特に高温域ではロックウールやセラミックスウール等の従来断熱材に比べ格段に優れた断熱性能を発揮</li> <li>・省エネや薄肉化・小型化・軽量化による生産性向上に寄与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に半導体関連装置の排気配管、真空ポンプ及び除害装置で使用</li> <li>・脱着可能でメンテナンス性に優れた配管加熱用ヒーターで、工場配管などを効率的に加熱・保温することで省エネを実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にセラミック電子部品の焼成工程に不可欠な部材</li> <li>・積層セラミックコンデンサ(MLCC)用としては世界シェアNo.1を誇る</li> </ul>

本資料は、当社の事業および財務状況等に関する参考情報として提供するものであり、特定の行為や意思決定を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料に記載されている情報のうち、将来の見通しに関する記載は、資料作成時点において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、各種リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績等は、これらの見通しと大きく異なる可能性があります。

従いまして、本資料の内容については、その正確性および完全性を保証するものではなく、本資料の利用または依拠した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



GenesisX

THANK YOU